

# 逆転の quand について :

## Je lisais le journal quand Marie entra.

### On the Grammatical Term ‘quand inverse’:

## *Je lisais le journal quand Marie entra.*

青井 明 AOI, Akira

● 国際基督教大学  
International Christian University

**Keywords** フランス語, 逆転の quand, 構文論, 意味論, 語用論, イントネーション  
French, *quand inverse*, syntax, semantics, pragmatics, intonation

#### ABSTRACT

小論の目的は、フランス語における「逆転の quand」を明らかにすることにある。標題の文はあいまいである。1つの意味は(1) « Quand Marie entra, je lisais le journal. »であり、もう1つの意味は(2) « Je lisais le journal, et à ce moment-là Marie entra. »である。構文論的には、(1)の場合には、従属節が主節を副詞的に修飾しているのに対して、(2)では、主節と従属節が並置されている。意味論的には、(2)では、主節の行為が、従属節の予想外の行為によって中断される。語用論的には、少なくとも、従属節は潜在的に新情報を含んでいる。なぜなら、それは時に主語倒置をするからである。最後に、音声的には、逆転の quand の場合には、quand の直前で短いポーズがある。

The present work aims to elucidate the grammatical term ‘quand inverse’ in French. The sentence of the title is ambiguous. One meaning is (1) *Quand Marie entra, je lisais le journal*, the other is (2) *Je lisais le journal, et à ce moment-là Marie entra*.

Syntactically, in the case of (1), the subordinate clause modifies the principal clause adverbially; in the case of (2), the principal and the subordinate clauses are juxtaposed. Semantically, in (2), the action of the principal clause is interrupted by an unexpected action of the subordinate clause. Pragmatically, at least the subordinate clause potentially contains new information because, on occasion, it may involve an inversion. Finally, from the viewpoint of sound, *quand inverse* has a short pause just before *quand*.

## 1. はじめに

標題の文は、あいまいで、1つの意味は、つぎの(1)で示される：

(1) *Quand Marie entra, je lisais le journal.*

もう1つの意味は、(2)のようにパラフレーズされる：

(2) *Je lisais le journal, et à ce moment-là Marie entra.*

(2)のような*quand*の用法は、これまで、しばしば*quand inverse*と呼ばれたので、ここでは、「逆転の*quand*」と呼ぶことにしよう<sup>1</sup>。

逆転の*quand*は、*quand*あるいは*lorsque*で導かれる時況節が、主節の後にあるというだけではない。主節で示された事行が、従属節で示された事行によって、思いがけない展開をみたり、意外な出来事を示したりすることを指している。

この逆転の*quand*については、これまでも多くの文法書や論文が触れているが、その大半は意味論的に分析している。

小論では、先行研究をまとめると同時に、構文論、意味論、語用論・談話、そして、これまで指摘されることの少なかった、イントネーションの諸点から、この問題の解明を目指したいと思う。

## 2. 構文的分析

いま、主節を*p*、従属節を*q*とすると、標題の文は*p quand q*と表せる。そして、*quand*を、*quand*、*lorsque*の代表とすることにしよう。すると、(1)の読みの文は*quand q*が*p*を副詞的に修飾している文と考えることができる：

(3) [*Je lisais le journal [quand Marie entra.]*]

それに対して、(2)の解釈の文は、*p*と*q*が*quand*を介して対等に結合していると解することができる：

(4) [*Je lisais le journal*] [*quand Marie entra.*]

これについて、川本(1956:209)はつぎのように述べている：

副詞節は副詞的修飾要素としての文の一事項にすぎないが、時に主節に対し従属節が意味の上か

らは等位関係になることがある。

そして、*J'avais treize ans quand ma mère est morte.*という文を例に引き、「母がなくなったときに、私は13歳でした」と*J'avais treize ans.*を伝達の主要事項とするときには、*quand*以下は従属副詞節である。ところが、「私は13歳でした。そのころに母がなくなりました」という伝達内容であると、これは、*J'avais treize ans et alors ma mère est morte.*と言い換えられ、等位節と同じ働きをすると説明している。

これについては、Fuchs & Léonard (1979)が、発話理論 (*théorie de l'énonciation*) の立場から分析しているので、それを見てみよう。

Fuchs & Léonard (1979: 169 sq.) はつぎの文は2通りに解釈されるという。

(5) *Je lisais tranquillement quand il fit irruption dans la pièce.*

1つの意味は、(6)のように言い換えられるものである：

(6) *Quand il fit irruption dans la pièce, je lisais tranquillement.*

このように、時況節が主節を副詞的に限定する場合を、彼女たちは*repérage dissymétrique*と呼んでいる。

これに対して、もう1つの意味は、つぎのような言い換えによって示される：

(7a) *Je lisais tranquillement, quand soudain (brusquement) il fit irruption dans la pièce.*

(7b) *Je lisais tranquillement, et à ce moment-là il fit irruption dans la pièce.*

今度は、主節と従属節が、等位関係で配置されている。この場合の*quand*の働きを、主節の事行を指したものとして、*repérage anaphorique*と呼んでいる。

最後に、構文論的観点からは、逆転の*quand*は、*p quand q*の語順でないと成立しないことに、注意しておこう。それに対して、時の副詞節としては、*quand q, p*もあるし、*p quand q*の語順もありうるのである。

### 3. 意味論的分析

#### 3. 1 先行研究

逆転の *quand* についてはじめて触れたのは、わたしの知るかぎりでは、Sèchehay (1950 : 202, 1926 (初版)) であろう。Sèchehay は « *quand* ou *lorsque* de péripétie » と呼んでいる。かれはラテン文法の *cum inversum* に平行して、*quand* の逆転性の用法が存在することを指摘している。かれは、*J'avais treize ans* (事実) *quand* *ma mère mourut* (時期を規定する出来事) . に対して、*J'avais treize ans* (事実によって示された時期) , *quand* *ma mère mourut* (その時期に発生した出来事) . という例を引き、同じ *quand* で導かれた節が、2通りの解釈をもちうることを示している。このように、Sèchehay は、主節が示す出来事に対して、従属節が予想外の出来事を示すという意味論の見地に立っている。

つぎに、Le Bidois (1967 : 415 sq.) は、(8) の例を引いて、

(8) *Colomba* *rentrait* dans le jardin, lorsque Orso ouvrit la fenêtre et cria... (Mérimée, *Colomba*)

時況節は文法的には、従属節であるけれど、主要な観念 (*idée principale*) を含んでいて、« Orso ouvrit la fenêtre et cria. » という節が意味的には、もっとも重要なのでありと述べている。

そして、Olsson (1971 : 80) は、逆転の *quand* について、以下のように説明している：

Dans un cas spécial de postposition, il est question d'un *quand* qui interrompt soudain l'action de la principale, sans que le lecteur y soit préparé par ce qui précède. C'est le *quand* dit « inverse ». Des adverbes tels que *tout à coup*, *soudain*, soulignent parfois ce que l'action de la temporelle a d'inattendu : (...)

こう述べて、つぎのような例をあげている：

(9) *Je* *rentra* à la maison, exaltée; j'ôtai dans l'antichambre mon manteau et mon chapeau noirs, quand soudain je m'immobilisai. (Beauvoir, *Mémoires d'une jeune fille rangée*)

Olsson は、*p quand q* で、*p* で予想しなかったことが、*q* で発生するとみなして、それを強調するために、*tout à coup*, *soudain* などの副詞が使われることがあると述べているのである。

Sandfeld (1977 : 262) も、時況節が予期しないことを表しうると述べ、つぎのように説明している：

Mais la proposition temporelle peut aussi marquer quelque chose d'inattendu qui vient en quelque sorte changer ou interrompre la situation : (...)

そして、つぎの例を挙げ、

(10) *Il* *rentrait*, quand il rencontra Claude Lantier. (Zola, *Le ventre de Paris*)

この文は、(10a) を表すが、別の文脈では、(10b) の意味にもなりうると記している：

(10a) *Il* *rentrait* et alors il rencontra Claude Lantier.

(10b) *Il* *rentrait* au moment où il rencontra Claude Lantier.

このような *quand inverse* を、「*quand inversum*」と呼んだのは、Togebly (1982 : 357) である。かれはその理由をつぎのように述べている：

Dans le cas où la temporelle postposée introduite par *quand* interrompt soudain l'action de la principale sans que le lecteur y soit préparé, on parle d'un *quand inversum*, sur le modèle du *cum inversum* du latin : (...)

Togebly は、ラテン語の *cum inversum* と平行に捉え、*quand inversum* という用語を用いている。それから、「*quand* で導かれた、後置された時況節が、読者がそれに準備をしていないうちに、主節の行為を突然中断する」という説明が、Olsson (1971 : 80) にきわめて似ていることにも注意したい。

#### 3. 2 時制

さて、これまで挙げてきた、逆転の *quand* の例はすべて、主節が半過去、従属節が単純過去であった。これは、半過去が継続を、単純過去が点

的事行を表すわけである。新倉 (1978 : 235 sq.) では、この半過去が「背景」を、そして単純過去が「事件」を表示していると思なしている。半過去が継続相を表し、それに対して、思いがけず現出した出来事が単純過去によって表現されるわけである。

ただし、これは典型的な例であって、それ以外の例があることにも注意しなければならない：

- (11) « (...) Nous allons prendre l'apéritif avec MM, Michoux, Le Pommeret et Jean Servières, quand le docteur est pris de soupçon en regardant son verre. (...) » (Simenon, *Le chien jaune*, 173)
- (12) Ils étaient déjà sortis du village quand le président se rappela qu'on avait oublié Méphisto à la maison. (Kundera, *L'insoutenable légèreté de l'être*, 453)
- (13) Je ne l'avais point vu depuis quelque temps, lorsqu'un jour, il arriva affolé : (Apollinaire, *La disparition d'Honoré Subrac*, 174)
- (14) Puis, dans un mouvement d'indignation, je le froissai entre mes doigts, lorsque le vrai Socrate, celui de l'ablatif absolu, m'arrêta d'un geste impérieux. (Pagnol, *Le Temps des Amours*, 30)

このように、主節に近接未来 (11)、大過去 (12, 13)、単純過去 (14) が、従属節にも現在 (11) が現れている。

このほか、従属節にあたる部分が、文ではなく、名詞句であったり (15)、不定法 (16) だったりすることさえある：

- (15) Je dînais d'une orange à l'ombre d'un oranger quand, tout à coup, Feux Chocs Rebondissements. (Cendrars, cité par *Grammaire Larousse*, 130)
- (16) Une servante allait sortir quand Master Georgie...de s'écrier cautiusement. (Verlaine, cité par Sandfeld (1978 : 161))

以上のようにして、主節 (半過去) quand 従属節 (単純過去) 以外のパターンも少ないが、ないわけではない。これについては、西村 (2011 : 176-178) も参照されたい。

### 3. 3 前望形, その他

主節の時制は、半過去に代表されるように、継続相を示すことが多いが、ここで、目に付くことは、aller + 不定法, s'apprêter à + 不定法, se disposer à + 不定法, être sur le point de + 不定法 といった、前望形 (formes prospectives) が散見されることである。わたしの収集した例では aller + 不定法が一番多かった。

この前望形の使用は、単に継続相を表すだけでなく、これからまさにある行為が開始されるという状況を強調する効果があり、それが、従属節で示される予想外の出来事と緊密に結合しているのである。以下、その例をみてみよう：

- (17) Il allait partir à regret, rentrer chez lui et remettre la suite de l'enquête au lendemain, quand on lui annonça que Reims l'appelait au téléphone. (Simenon, *Le pendu de Saint-Pholien*, 56)
- (18) Jacques s'apprêtait à sortir, lorsque Peter, ouvrant une boîte de cigarettes, l'arrêta par la manche. (Cocteau, *Le grand écart*, cité par Sandfeld (1977 : 262))
- (19) Elle se disposait à payer quand un homme s'approcha, gras et pâle. (Sartre, *Les mots*, cité par Vogeleer (1998 : 89))
- (20) J'étais sur le point de sortir, lorsque le téléphone sonna. (Logos, 1850)

前望形以外の準助動詞としては、commencer à + 不定法, venir de + 不定法をあげることができる。これらも起動相や近過去を表して動作・行為の緊迫性を強調し、従属節との結合を高めている。それから、継続相を示すものの1種として、en être làも付け加えて置く：

- (21) Il commençait à manger quand l'inspecteur Dufour, tout menu, tout correct dans son complet gris, avec un faux col très haut et très raide, entra de l'air mystérieux qui lui était habituel. (Simenon, *La tête d'un homme*, 16)
- (22) On venait d'autoriser les hommes à faire la soupe...lorsqu'un second départ de troupes occupa de nouveau les têtes. (Zola, *La Débâcle*, cité par Sandfeld (1977 : 262))

- (23) La conversation en était là lorsque M. Ancelot, qui avait entendu des éclats de voix, entra dans la salle à manger. (Aymé, *Travelingue*, cité par Chétrit (1976 : 110))

なお、主節に現れる、このような前望形などの動詞表現については、Chétrit (1976 : 111 sq.) が詳しく例を挙げている。それらは、venir juste de, vouloir...d'un coup, aller + infinitif... Brusque, aller + en être à...fuser, ouvrir pour などである。

#### 4. 語用論的, 談話的分析

従来の意味論中心の分析に対して、はじめて語用論的, 談話的分析を適用したのは, Vogeleer (1998) である。彼女は視点という観念を導入して、逆転の quand を説明しようとしている。すなわち、発話時のナレーターの視点と、出来事の時点の人物の視点の重複したものによって、逆転の quand の驚きの効果が生まれるとしている (Vogeleer (2000 : 311))。

ここでは、主題/評言、情報、人称などの観点から、逆転の quand を分析していく。

##### 4. 1 主題 (thème) / 評言 (rhème)

主題/評言という観点からすると、逆転の quand の文は、主題も評言も含んではいないようである。ただし、Vogeleer (1998 : 82) によると、後置された quand 節は、主題的でも、評言的でもありうるという。たとえば、つぎの (24) の P2 では主題的である：

- (24) P1.---Que faisait Jean quand Michel est entré ?

P2.---Jean lisait le journal quand Michel est entré.

それに対して、(25) の quand 節は評言的である：

- (25) Jean lisait le journal quand Michel est entré et non pas quand il est sorti.

なお、前置された quand 節はつねに主題的であるという (Vogeleer (1998 : 82))：

- (26) Quand Michel est entré, Jean lisait le journal.

##### 4. 2 新情報 (information nouvelle) / 旧情報 (information ancienne)

つぎに、新情報/旧情報といった観点から見ると、Vogeleer (2000 : 311) は、逆転の quand の文は、主節も従属節もともに新情報を含んでいると言っている。しかし、その根拠はとくに示していない。

ここでは、ことに quand 節が新情報を含んでいる証拠として、quand 節がしばしば倒置 (inversion) を行っていることを挙げたいと思う：

- (27) Je dormais à poings serrés le lendemain matin quand aux pieds de mon lit se dressa un monsieur en habit noir. (Daudet, *Trente ans de Paris*, cité par Sandfeld (1977 : 262))

- (28) Les hommes étaient à trois mètres de l'abri lorsque retentit une explosion terrible. (*Dictionnaire syntagmatique du français*, 208)

- (29) (...) ce jeu était admirable, et je préparais mon courage pour y jouer ma partie, lorsque vint le tour de Galliano : (...) (Pagnol, *Le Temps des Secrets*, 237)

- (30) Il désespérait de découvrir ce que Richarde souhaitait, quand, un soir, au coucher du soleil, au fond d'un ravin, lui apparut une ourse qui grattait la terre pour jouer avec ses oursins. (Hinzelin, *Contes et légendes d'Alsace*, cité par Olsson (1971 : 80))

このように、逆転の quand の場合に、しばしば倒置が見られるということは、倒置された名詞句に新情報があるということになる。このことから、少なくとも時況節には、新情報があると考えてよいだろう。

それから、この新情報に関していうと、例は倒置に比べるとはるかに少ないが、非人称の il の用例があることも挙げておこう。非人称の il も、倒置と同様に、新情報を後置する機能があるからである：

- (31) J'avais déjà commencé à manger lorsqu'il est entré une bizarre femme qui m'a demandé si elle pouvait s'asseoir à ma table. (Camus, *L'étranger*, 66)

- (32) Joseph Heurtin avait six ans quand il lui naquit

une sœur, Odette. (Simenon, *La tête d'un homme*, 36)

最後に、時況節が新情報を含んでいるからといって、これは必ずしも前文で現れなかった、まったく未知の情報であるとは限らないことに注意しておきたいと思う。

つぎの例は、ジャーナリストのPhilippeが商店主に事件について聞いている場面だが、爆発があったということは、初めのほうで述べられていて、あとでそれを商店主が逆転のquandを用いて、説明しているのである。だから、quand節のなかに含まれる情報はまったくの未知というわけではないのである。

(33) Philippe Qu'est-ce qui s'est passé exactement?  
Le commerçant Vous voyez! Il y a eu une explosion, la vitrine du magasin est complètement cassée.

(...)

Philippe Vous avez vu quelque chose?  
Le commerçant Je servais un client, quand j'ai entendu une explosion très violente.  
(Monnerie, *Intercodes 1*, 140)

Quand節に含まれる新情報は、まったく未知の情報でなくとも、主節に対して、思いがけぬ、意外な出来事を示しているのである。

#### 4.3 人称

Voegelé (1998: 89) は、主節の主語には、1人称あるいは3人称（または固有名詞）が現れやすいと指摘している。この、人称という点からすれば、逆転のquandの場合には、quand節には、2人称は現れないと言えるだろう。たとえば、つぎの文は、

(34) Je lisais le journal quand tu entras.

逆転のquandの解釈にはならず：

(34a) \*Je lisais le journal quand brusquement tu entras.  
quand節は、時の副詞節としてのみ機能する：

(34b) Je lisais le journal au moment où tu entras.

(34c) Quand tu entras, je lisais le journal.

これはなぜかという、2人称が指している聞き手は、すでに自分が部屋に入ったことを知って

いて、quand節が主節に対して、予想外の出来事が起こったことを示すことと矛盾してしまうからである。

それから、人称に関しては、quand節の主動詞にしばしば知覚動詞が現れること、そして、この場合、quand節の主語はほとんどつねに主節の主語と一致するということを指摘しておこう。

まず、どんな知覚動詞が現れるかと言うと、apercevoir, s'apercevoir, entendre, constater, découvrir, remarquer, sentir, voirなどである：

(35) Elle attendait depuis trois quarts d'heure, quand tout à coup elle aperçut Rodolphe... (Flaubert, *Madame Bovary*, cité par Le Bidois (1967: 416))

(36) J'hésitais à sortir, quand, soudain, j'entendis rire sous ma fenêtre. (Camus, *La chute*, cité par Olsson (1971: 81))

(37) Cependant, je faisais consciencieusement mon métier de chien, lorsque je remarquai, au bord de la barre, une sorte de stèle, faite de cinq ou six grosses pierres entassées par la main de l'homme. (Pagnol, *Le Château de ma Mère*, 19)

(38) Il était deux heures et Maigret achevait de déjeuner au Café de Paris quand il vit entrer Van Damme, qui regarda autour de lui comme s'il cherchait quelqu'un. (Simenon, *Le pendu de Saint-Pholien*, 70)

これらの例のように、時況節の主語が1人称であると、主節の主語も1人称であり(36, 37)、時況節の主語が3人称であると、主節の主語も3人称である(35, 38)。このようにして、同じ人物の視点から経験されたこととして述べられているのである。

ただし、同じ人称であっても、数が異なることはある。つぎの(39)では、時況節の主語はjeであるが、主節の主語はnousである：

(39) Nous cherchâmes longtemps, et nous étions sur le point d'abandonner notre exploration lorsque j'entendis sortir d'un hallier une voix qui ressemblait fort à celle de Peluque. (Pagnol, *Le Temps des Amours*, 289)

そして、主節と従属節の主語が異なる場合もま

れにある：

(40) Il allait me l'expliquer, lorsque je vis s'avancer vers nous les deux souliers noirs immenses sur lesquels naviguait le pion ; (...) (Pagnol, *Ibid.*, 158)

ここでは、時況節の主語が *je* で、主節の主語が *il* である。しかし、よく注意してみれば、主節では、*me l'expliquer* となっており、ここに1人称間接目的語がひそんでいる。この *me* が時況節の主語の *je* と結合しているのである。

## 5. 音声的分析

最後に、音声的側面から逆転の *quand* を分析してみよう。従来の研究は、意味論的分析が大半を占め、音声的側面についての言及はほとんどない。その中で、Wartburg & Zumthor (1973 : 213) が、つぎの例について、

(41) Je lisais lorsqu'il entra.

この文には、2通りの意味があるが、1つの意味は、*lorsque* までポーズなしに一息に発音された場合で、このときは純然たる同時性を表している。この場合には、つぎのようにパラフレーズすることができるだろう：

(41a) Lorsqu'il entra, je lisais.

(41b) Je lisais au moment où il entra.

一方、*lorsque* の直前でポーズがある場合には、彼が部屋に入ってきたことによって、「私」の読書が中断されることを表す。これは、つぎのように言い換えることができる：

(41c) J'étais en train de lire, et soudain il entra.

この場合には、「*il entrer*」が物語の主要な出来事になり、「*je lire*」は二次的な出来事になる<sup>2</sup>。

Fuchs & Léonard (1979 : 169) は、前述したように、つぎの文はあいまいで、2通りの意味があると述べている：

(5) Je lisais tranquillement quand il fit irruption dans la pièce.

たしかに、この文は書記上は2通りに解釈されるかもしれないが、実際に口頭で発音した場合には、差異が生じると考えられる。青山学院大学教

授 France Dhome 氏に意見を求めたが、彼女も同意見であった。

(5) が逆転の *quand* の意味になるときは、*Je lisais tranquillement* まで平坦なイントネーションで発音され、*quand* の直前に短いポーズがあり、*irruption* で上昇し、*pièce* で下降する：

(5a) Je lisais tranquillement / quand il fit irruption ↗ dans la pièce ↘.

一方、時況節が副詞的に主節を修飾する場合には、*tranquillement* で上昇し、あとは *pièce* に向かって下降していく：

(5c) Je lisais tranquillement ↗ quand il fit irruption dans la pièce ↘.

このように、音声的には、ポーズがあつたり、イントネーションが異なつたりして、2つの解釈は区別されていると考えられる。

## 6. 結論

小論では、先行研究を検証しながら、逆転の *quand* を構文論、意味論、語用論・談話、そして音声的側面の諸点から検討した。構文論的には、逆転の *quand* は、*p quand q* の位置が固定していて、主節と時況節が等価に結合している。意味論的には、*p quand q* の *p* の事行が、予想外の *q* の事行によって中断されることを表している。語用論的・談話的観点からは、逆転の *quand* は主題でも、評言でもない。情報という点からは、少なくとも *quand q* は新情報を含んでいると考えられる。なぜなら、*quand q* には倒置や非人称の *il* が見られるからである。また、人称という点からは、*quand q* にはまず2人称は現れない。もしも、2人称であれば、それは逆転の *quand* の解釈にはならなくなる。最後に、音声的側面からは、逆転の *quand* の場合には、*quand* の前まで平板なイントネーションで発音され、*quand* の直前でポーズがあるという特徴がある。それに対して、副詞節の *quand* では、*quand* の直前がイントネーションの頂点になり、そのあと徐々に下降する。このようにして、逆転の *quand* と副詞節の *quand* は音声的に区別される。

## 参考文献

- 青井 明 (1983). « Quand~ »と「~とき」について  
日・仏語の対照言語学的研究論集 早稲田大学  
pp. 9-20.
- Bally, Ch. (1965). *Linguistique générale et linguistique  
française*. Berne : Francke.
- Chétrit, J. (1976). *Syntaxe de la phrase complexe à  
subordonnée temporelle : Etude descriptive*. Paris :  
Klincksieck.
- Fuchs, C. & Léonard, A. - M. (1979). *Vers une théorie des  
aspects*. Paris : Mouton.
- 川本茂雄 (1956). 文の構造 フランス語学文庫4 白  
水社
- Le Bidois, G. & R. (1967). *Syntaxe du français moderne,  
Tome II*. Paris : Picard.
- 巻下吉夫 (1979) WHENとその逆転性について 英語と  
日本語と くろしお出版 pp. 323-343.
- 新倉俊一ほか (1978). フランス語ハンドブック 白水社
- 西村牧夫 (2011). 中級フランス語よみとく文法 白水  
社
- Olsson, L. (1971). *Etude sur l'emploi des temps dans  
les propositions introduites par quand et lorsque  
et dans les propositions qui les complètent en  
français contemporain*. Uppsala : Almqvist &  
Wiksell.
- Sandfeld, Kr. (1977). *Syntaxe du français contemporain  
: Les propositions subordonnées*. Genève : Droz.
- (1978). *Syntaxe du français contemporain : L'infinitif*.  
Genève : Droz.
- Sèchehaye, A. (1950). *Essai sur la structure logique de  
la phrase*. Paris : Champion.
- Togeb, K. (1982). *Grammaire française, Volume II*.  
Copenhague : Akademisk Forlag.
- Vogeleer, S. (1998). *Quand inverse, Revue québécoise  
de linguistique*, Vol. 26, No. 1 (pp. 79-101).  
Montréal : RQL.
- (2000). La subordonnée temporelle postposée et  
la thémativité, *La thémativité dans les langues*  
(pp. 297-317). Bern : Peter Lang.
- Wartburg, W. & Zumthor, P. (1973). *Précis de syntaxe  
du français contemporain*. Berne : Francke.

## 註

- 1 英語にも、逆転の quand に相当する when の用法があるようである。Vogeleer (1998 : 79) は、I was just going to lock the door when the doorbell rang. という例を挙げている。また、逆転の when と日本語の対照研究については、巻下 (1979) を参照のこと。
- 2 Bally (1965 : 64) も、音調 (mélodie) によって、従属節が主節に変化することがあると指摘している。「 Nous étions au jardin lorsque l'orage éclata. » は、音調によっては、「 Alors que nous étions au jardin, un orage éclata. » の意になると述べている。